

# 草津未来研究所 News Letter



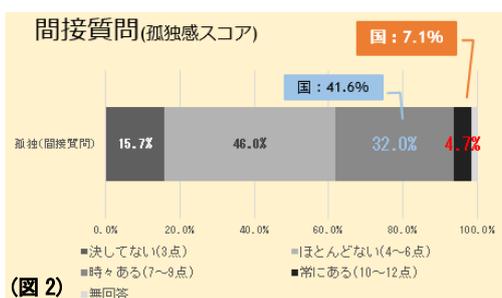
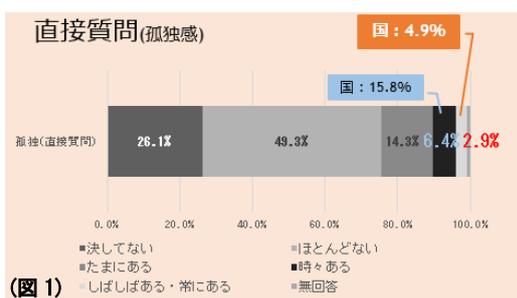
令和5年度に実施した調査研究の報告会を開催しました

6月4日に草津未来研究所が令和5年度に実施した調査研究の報告会を開催しました。当日は、市職員など、計32名の方に参加いただきました。

## 調査研究①「草津市における高齢者を中心とした孤独・孤立に関する調査研究」の概要

新型コロナウイルス感染症が蔓延し、社会とのつながりが希薄化したことで、孤独・孤立の問題がより一層深刻な社会問題となっていることから、我が国では、孤独・孤立対策担当大臣を新設し、内閣官房に設置した孤独・孤立対策室を中心に孤独・孤立に対する取組を開始しました。

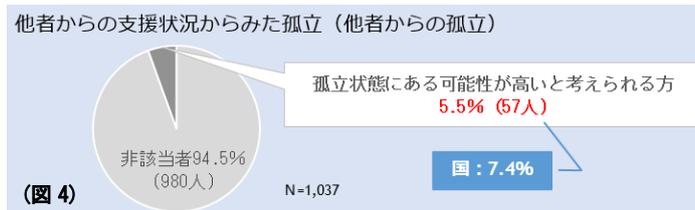
本市の高齢者の孤独・孤立状況を確認するために、中高年以上を対象にアンケート調査を行ったところ、本市における孤独・孤立の状況は全国と比べると深刻とはいえない状況でした(図1~4参照)



が、80歳以上の高齢者における孤独・孤立の割合が高く、地域によって孤独・孤立の状況が異なっていました。今後はさらに単身世帯の増加が見込まれていることから、孤独・孤立問題の増加が懸念されます。



本市における「孤独・孤立」対策は、他施策に包含されていますが、現在の体制・施策のみで孤独・孤立問題に対応していくことができるのか、今一度考える必要があります。ま



ずは市全体で孤独・孤立の問題や現状の理解を深めることが重要であり、様々な世代の孤独・孤立問題にどう対応していくのか、早急に考えていかなければなりません。

## 調査研究②「健幸都市くさつの実現に向けた取組に関する調査研究

### －草津市民および大学生の特徴に着目して－の概要

草津市は、市民一人ひとりが生きがいをもち、健やかで幸せに暮らすことができる社会の実現を目指すため、2016(平成 28)年 8 月に草津市健幸都市宣言を行い、取組を進めてきましたが、2022(令和 4)年度の市民意識調査における「草津市が健幸なまちだと思う市民の割合」については最終目標値を下回り、課題を残す形となりました。そのことから、健幸都市草津の実現に向けた取組を進めるため、基本方針の目標である『健康寿命の延伸』と『健幸に暮らせていると思う市民の割合の増加』につながるよう、「健やか」「生きがい・幸せ」「絆・つながり」の分野に着目し今後の取組の方向性を検討しました。

草津市民等における健幸に関する特徴を明らかにするために行ったアンケートにおいては、草津市民と大学生を比較した結果、多くの質問項目について同じような傾向を示していました。また、草津市健幸都市づくり推進チームにも参加し、検討を重ねました。

アンケート調査結果の特徴などから、今後の取組の方向性として、「歩くことを中心にした施策の展開とデジタル技術の活用」「生活習慣の改善に向けた啓発および取組の研究」「興味・関心のあることで社会と関わる仕組みづくり」「人々のつながりを構築する複数の仕掛けづくり」「無関心層へのアプローチ」に関連した取組を取り上げ、今後の課題としては、健幸都市くさつを着実に推進し、みんなが生きがいをもって、健やかで幸せな暮らしができるまちを実現するには、健幸都市くさつとして、どのような状態を目指しているのか将来像を明確にしておくことが必要で、本市の健幸都市の実態を継続的に把握し、現在の状態が、本市が目指す健康都市の将来像に対してどの位置にあるのか、またどの分野に課題があり改善していけば良いのか、市民は健幸に対して何を求めているのかを把握・分析し、有効な施策を展開していくことが必要であるとなりました。



「健幸都市くさつ」が目指すビジョン(まちの将来像)イメージ図 ※健幸都市推進チーム作成

詳しい内容は草津未来研究所のホームページに掲載している調査研究報告書をご覧ください。